

問2 次の□に適切な漢字を入れて、四字熟語を完成させなさい。

(1) 弱肉強

□

(2) 起承

□

(3) 電

□

石火

(4) 我田

□

(5) 温

□

(6) 心

□

一転

問3 次の会話の空欄にあてはまる四字熟語を書きなさい。

先生 「昨日までは少し風が冷たかったのに、今日はぽかぽか陽気の一日で、季節はもうすっかり春ですね。」

生徒 「今日のように、春先の暖かい日のことを□と言うのですか。」

先生 『春のような暖かい日』をそう言いますが、使い方が間違っています。その言葉は、冬の初めの頃の穏やかな暖かい日のことを言うので、春先に使うのはおかしいですね。」

□

### 6 (ことわざ) 次の各問いに答えなさい。

問1 「ぬかに釘」と似た意味のことわざを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 猫に小判

イ のれんに腕押し

ウ 焼け石に水

エ 月夜に提灯

問2 「善は急げ」と反対の意味のことわざを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 転ばぬ先の杖

イ せいでは事をし損じる

ウ 二階から目薬

エ 光陰矢のごとし

問3 「蛇足」と似た意味の言葉を、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 帯に短したすきに長し

イ 提灯に釣鐘

ウ 無駄足を踏む

エ 無用の長物

問4 次の会話の空欄Iにあてはまる内容として最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。また、空欄IIにあてはまる言葉を漢字一字で書きなさい。

Aさん 「お楽しみ会の参加希望者が少ないので、地域のおじいさんやおばあさんにも参加してもらいましょうか。」

Bさん 「そうですね。I」といいますから、少しでも人数が多いほうがいいですね。」

Aさん 「その使い方は間違っていますよ。『つまらないものや役に立たないものでも、ないよりはまし』という意味なので、自分のことを謙遜するときに使う言葉です。他人に対して使うのは失礼です。」

Cさん 「『役に立たないもの』をたとえたことわざの一つに、IIの手も借りた』がありますね。『非常に忙しくて、どんな手伝いでもほしい』という意味です。」

ア 三人寄れば文殊の知恵

イ 雀百まで踊り忘れず

ウ 枯れ木も山のにぎわい

エ 下手な鉄砲も数打ちゃ当たる

I 〔 〕

II 〔 〕

□

14 〈話し合い〉 次の問いに答えなさい。

問1 次は、中学生のAさんの学級で、【今月の学習目標】について話し合いを行っている様子です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【今月の学習目標】

《目標の候補》

- ① 学習時間を一時間長くしよう！
- ② 「量」より「質」の学習を心がけよう
- ③ 日進月歩く学びに励み、変わろうく

話し合いの様子

司会 「では、提案された三つの候補について話し合いたいと思います。それぞれの候補について自由に発言してください。」

Aさん 「私は①の『学習時間を一時間長くしよう！』がよいと思います。理由は、『一時間』という具体的な数値が示されているので、目標に取り組みやすいと思うからです。」

Bさん 「私は③の『日進月歩く学びに励み、変わろうく』を推薦します。たえまなく進歩していくという『日進月歩』の意味と、副題を合わせて考えると、学習が私たちを成長させてくれるものだと意識しながらそれに取り組みれると思うからです。」

Cさん 「私は②の『量』より『質』の学習を心がけよう』がよいと思いました。『量』より『質』』という表現には、学習を時間の長さというIのみでとらえることなく、内容の充実という中身のよしあしでとらえようとする意志を感じるからです。」

Dさん 「Cさんの意見に賛成です。ただ、このままだと『質』さえよければ『量』はいらないという誤解を招く危険もあるので、そこは

気をつけた方がよいと思います。」

Cさん 「そうですね。比較の格助詞である『より』を使うとそのようにとらえられてしまうかもしれないので、『量』と『質』のように言いかえてもよいかもしれません。」

- (1) 空欄Iにあてはまる言葉を、話し合いの様子の中から探し、二字で書き抜きなさい。

- (2) 比較の格助詞である『より』を使うとそのようにとらえられてしまいかもしれないので、『量』と『質』のように言いかえてもよいかもしれませんが、とありますが、このCさんの発言についての説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 直前の発言内容に部分的に賛同しながら、その問題点について指摘している。
- イ 他の人の発言を引用して、自分の考えの正当性に説得力をもたせている。
- ウ 直前の発言内容について考察した上で、自分の考えを提案として示している。
- エ 他の人の発言に改変を加えて、自分なりの新たな意見として示している。
- (3) 日進月歩 は、似た意味の二字熟語を組み合わせてできた四字熟語です。これと同じ構成の四字熟語を、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 半信半疑    イ 心機一転    ウ 花鳥風月    エ 空理空論

# 練習問題

## 1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

やまと歌は、人の心を種として、よろづの言の葉とぞなれりける。世の中にある人、ことわざしげきものなれば、心に思ふことを、見るもの聞くものにつけて、言ひ出だせるなり。花に鳴くうぐひす、水に住むかはづの声を聞けば、生きとし生けるもの、いづれか歌をよまざりける。  
(紀貫之著『古今和歌集 仮名序』による。)

問1 よろづの とありますが、この部分を「現代仮名遣い」に直し、ひらがなで書きなさい。

問2 生きとし生けるもの とありますが、この例として、「人」のほかになげられてるものを、本文中から二つ書き抜きなさい。

問3 いづれか歌をよまざりける。 の意味として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 何一つとして歌をよまないものだ。
- イ 何一つとして歌をよまないものはないのだ。
- ウ 中には歌をよまないものもあるだろう。
- エ 中には歌をよむものもあるだろう。

問4 紀貫之の作品を、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 竹取物語
- イ 徒然草
- ウ 土佐日記
- エ 平家物語

## 2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(……の左側は口語訳です。)

除目のころなど内裏わたりいとをかし。雪降りいみじう氷りたるに、  
官吏の任命式 官中のあたり 申し文もてありく。四位・五位、若やかにこちよげなるは、いとた  
意気揚々としている申請者たちは 任官申請書

のもしげなり。老いてかしら白きなどが、人に案内言ひ、女房のつば  
推薦の取り次ぎを頼み 女官 部屋 ねなどに寄りて、おのが身のかしこきよしなど、心ひとつをやりて説  
一生懸命に き聞かするを、若き人々はまねをし笑へど、いかでか知らむ。  
(注) ※四位・五位……女官たち 官吏の位階。 『枕草子』による。)

問1 まねをし笑へど とありますが、この部分を「現代仮名遣い」に直し、ひらがなで書きなさい。

問2 作者の心情を表した言葉を本文中から探し、三字で書き抜きなさい。

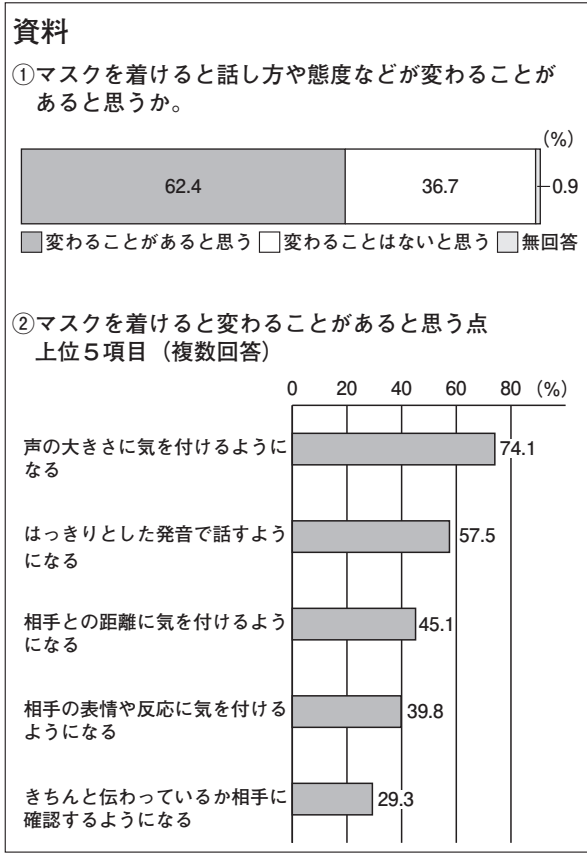
問3 いかでか知らむ。 とありますが、だれのことを言っているのですか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 若やかにこちよげなる
- イ 老いてかしら白き
- ウ 若き人々
- エ 作者

問4 この文章の作者名を漢字で書きなさい。

1 次の資料は、文化庁が行った「国語に関する世論調査」の結果をまとめたものです。

国語の授業で、この資料から読み取ったことをもとに「マスクを着けて会話をするとき、気を付けること」について、一人一人が自分の考えを文章にまとめることにしました。あとの(注意)に従って、あなたの考えを書きなさい。



文化庁 令和2年度「国語に関する世論調査」より作成

- (注意)
- (1) 二段落構成とし、第一段落では、あなたが資料から読み取った内容を、第二段落では、第一段落の内容に関連させて、自分の体験(見たこと聞いたことなども含む)をふまえてあなたの考えを書くこと。
  - (2) 文章は、十一行以上、十三行以内で書くこと。
  - (3) 原稿用紙の正しい使い方に従って、文字、仮名遣いも正確に書くこと。
  - (4) 題名・氏名は書かないで、一行目から本文を書くこと。

13

11
